

# Q&A 検査に関すること

- ①胸部レントゲン
- ②胃バリウム検査
- ③胃カメラ
- ④検便
- ⑤大腸カメラ
- ⑥子宮がん検査
- ⑦乳腺エコー・マンモグラフィ
- ⑧骨密度
- ⑨眼
- ⑩ABI
- ⑪MRI



## ①胸部レントゲン

Q：胸部レントゲンを最近撮影しました。今回の健診でも撮影しないといけなのですか？体に影響はないのですか？

A：最近レントゲン撮影をおこなった場合でも診察内容によってみる部位が違う場合があります。そのため、再度レントゲン撮影していただいています。レントゲンは微量の放射線で撮影しているので体への影響はありません。

## ②胃バリウム検査

Q：バリウムはどのようなものですか？

A：白色で臭いも味もほとんどありません。約 100ml 飲んでいただきます。ドロドロしていて、個人差はありますが少しノドにかかる感じがあります。

検査後バリウムは体内に吸収されることなく、胃から最終的に肛門から身体の外に排泄されます。そのため、検査後は下剤を服用し、水分をたくさんとって早く白い便を出すようにして下さい。翌日まで出せなかった場合は、腸の中で固まり、出にくくなる場合がありますので注意して下さい。

Q：バリウム検査のとき注射（ブスコパン）はするのですか？

A：注射をすることでの神経損傷の恐れや副作用の出現（動悸、めまい等、ひどい場合はショック）の恐れがあるため、現在当院では使用しておりません。

Q：便秘気味なのですかバリウム検査をうけても大丈夫ですか？

A：3日以上排泄がない場合は、バリウム検査はおすすめしておりません。

Q：バリウム検査をしましたが、帰宅後便が出ません。どうしたらいいですか？

A：お手持ちの下剤があれば追加して飲まれても構いません。水分を多く摂って様子を見て、軽くお腹をマッサージしたり、少し体を動かすと腸が動き排便が促されます。白い便でなくても便が出ていれば大丈夫です。それでも排便が全くなく、腹部が張っている感じや気分不良、腹痛などの症状が強くなりましたら、はやめに外来、又は救急外来を受診して下さい。

Q：バリウム検査後、排便あるもすっきりしません。または、白っぽい便ではなかったが大丈夫？追加の下剤を飲んだほうがいいですか？

A：排便があつて、腹部症状がなければ様子を見ますが（バリウム便は、人によって真っ白でない場合もあります。）便秘症やその他の検査所見によっては、早めに来院していただくか、近医を受診していただくこともあります。

### ③胃カメラ

Q：胃の検査にバリウムを飲む方法与胃カメラがあるようですが、どちらが優れていますか？

A：胃透視検査では胃のどこを間接的にみて病変の有無や形状・範囲が分かります。平らな病変や小さな病変はわかりにくい点があります。

胃内視鏡では直接観察することで小さな病変や炎症性の変化がわかるほか、組織検査により病変が良性か悪性かの診断ができます。診断の正確さを求めるのであれば、それぞれ一長一短はありますが、胃内視鏡の方が優れていると言えるでしょう。

すでに病変を指摘されている場合には胃内視鏡が好ましいでしょう。

胃カメラ検査		胃バリウム検査
・微細な病変でも診断できる。 ・生検が当日できる	長所	・胃の全体の形が分かる。 ・食道や胃の動き、食べ物の通る様子がわかる。
・飲み込むのが苦手な人がいる。 ・咽頭麻酔等の前投薬でアレルギーを起こす可能性がある。	短所	・異常が見つければ後日胃カメラを受けなければならない。 ・検査後、腸の中でバリウムが固まって便秘が起こりやすい。 (便秘のひどい方は出来ない) ・放射線の被曝がある。(妊娠中の方は検査できない) ・様々な動きをする必要があるため、麻痺や傷みがある人、技師の指示が聞き取れない、理解できない人は出来ない。 ・消化管をバリウムが通過するので、消化管の術後や腸閉塞既往のある人は出来ない。 ・検査後の下剤は24時間効果が持続するので、授乳を24時間止める必要がある。

Q：胃内視鏡検査はどのようにして検査するのですか？

A：口から内視鏡（太さは小指より少し細め）を入れて検査を行います。事前に麻酔薬をスプレーしたり、入眠導入剤（ロヒプノール）の注射をしたりして検査が辛くないような処置も行なっています。

Q：血液サラサラの薬を飲んでいるのですが、胃カメラを受ける事ができますか。

A：受診出来ますが、基本的に組織検査を実施していません

Q：胃カメラ検査終了後、すぐに食事しても良いですか？

A：胃カメラ終了時、喉に麻酔がかかっている状態です。検査終了後 1 時間ぐらいうると、喉の麻酔の効果が消退してきます。水を飲んでむせたりしなければ、食事を召し上がってください。

Q：胃カメラ検査の後、黒っぽい便がでたが大丈夫？

A：胃カメラの際、生検をされた方は生検した部位からの出血をまず疑います。のり状のタール便の場合は、絶食とし至急来院していただきます。生検をしていない方は、腹部症状があれば受診していただくこともあります。

Q：胃カメラ後の咽頭部の違和感・痛みがある。

A：乾燥やその日の体調によって咽頭部が敏感になっていたり、風邪等により症状が生じたか、嘔吐反射時や咳込み時に、胃カメラが咽頭部へ触れたりして刺激となっている可能性があります。その殆どは時間の経過とともに軽快していきます。1 週間ほど経過をみて症状に軽減がない場合や増強した場合は再度、当センターへご連絡下さい。

## ④ 検便

Q：下痢なので検便はとれそうにないのですが、どうしたら良いですか？

A：検便は便に血が混じているかどうかを見る検査です。下痢でも採取していただいてけっこうです。

## ⑤ 大腸カメラ

Q：大腸カメラを受けたいのですが、どうしたらいいですか？

A：大腸カメラ検査は、事前の予約制となっております。人間ドック受診後でも、半年以内でしたら、後日予約にて検査を受けることは可能です。

Q：大腸カメラの同日実施は可能ですか？

A：申し訳ございません。大腸カメラは前処置・前投薬がある為同日では受けられませんし、一日がかりの検査となる為、基本ドック受診後改めて別日での実施となります。過去に大腸の病気などがある場合は外来受診をお勧めする事もあります。

Q：大腸カメラを受けたいのですが、いくらかかりますか？また、時間はどのくらいかかりますか？

【料金について】

A：オプションで通常料金は 15,000 円+税

※人間ドックとは別日でのご予約になります。

【検査時間について】

A：朝は自宅にて8時～10時までに洗腸剤を飲んで頂いて腸を空にして頂きます。看護師が腸の調子を電話にて確認し、13時頃センターへ来院するようご案内いたします。大腸検査は14時より順次ご案内させていただきます。終了時間は遅くとも16時頃になります。（但し、内視鏡室の混み具合により異なります。）

Q：大腸カメラを行った際にポリープが見つかったら摘出して頂けますか。

A：ポリープなどが見つかれば必要と判断された場合、検査目的で採取(組織検査)致しますが、大きなポリープがある場合やサラサラのお薬を処方されている方は、紹介状を発行し後日外来で手術をして頂きます。

## ⑥子宮がん検査

Q：子宮がん検査はどのようにして検査するのですか？

A：電動式の開閉台にあがっていただいて、足は少し開脚した状態での検査になります。検査は子宮の入り口をブラシでかるくこすりとり、細胞をとります。

Q：子宮がん健診後に出血がとまらない。

A：細胞を採取したために、多少の出血がみられる場合がありますが、殆どは心配ありません。持続する場合や出血量が多くなる場合には婦人科外来受診へご案内いたしますので、ご連絡下さい。

## ⑦ 乳腺超音波(エコー)・マンモグラフィ

Q：乳腺超音波はどのようにして検査するのですか？

A：乳房にゼリーを塗って端子（超音波の出る機器）をあてて検査を行います。

Q：マンモグラフィはどのようにして検査するのですか？痛みはありますか？

A：乳房を機械ではさんでレントゲンを使用して撮影する検査です。立ったままの状態では検査は行ないません。乳房はできるかぎりはさんでおしつぶした状態で検査するので軽度痛みを伴う場合があります。薄く伸展させ、固定することで、下記のような利点があります

- ① 乳腺の重なりが少なくなり、中に小さな病気があったときに見つけやすくなります
- ② ボケやにじみの少ない、シャープな画像を撮ることができます
- ③ X線の量（被ばく線量）が少量で済みます

Q：マンモグラフィと乳腺超音波はどちらがよいですか？

A：乳房は年齢等によりどちらがよいかは一概に言いきれません。一般的には30歳代の方は乳腺が発達しているので、マンモグラフィでは写らない場合が多いため、乳腺超音波検査をおすすめします。当院では、マンモグラフィは40歳代からおすすめしております。また、40歳代以上の方は隔年で交互に受診するか、可能であれば毎年両方を受診することをおすすめしています。

マンモグラフィ		乳腺超音波
石灰化が良く分かる	長所	しこりの内容がよく分かる
若い人は乳腺が多く、濃く写ってしまいしこりが隠れて見えないことがある 放射線を使う検査なので、妊娠疑い・妊娠中の人は検査ができない。	短所	
リスクが高い人		
家族に乳がんにかかった事がある人	本人が、乳腺疾患にかかったことがある	
初産が30歳以上、または出産歴がない		
初潮が早く（11歳以下）閉経が遅い（55歳以上）	閉経後の肥満	
長期間（10年以上）のホルモン補充療法（更年期障害の治療）を受けている		

## ⑧ 骨密度

Q：骨密度はどのようにして検査するのですか？

A：検査台に上腕部をのせてレントゲン撮影を行います。レントゲン検査なので、妊娠中又は可能性のある方はできません。

## ⑨眼

Q：眼圧の検査は何を調べているのですか？

A：眼圧検査とは検査台にあごをのせ、目を大きく開いて瞬間的に噴射した空気で眼圧(眼球内圧)を測定する検査です。眼圧の高さで、高眼圧症（視神経や視野には障害はないが、眼圧が慢性的に高い）や、緑内障（視野に欠損がみられる）、網膜(もうまく)剥離(はくり)、虹彩(こうさい)毛(もう)様体(ようたい)などの目の病気にかかっているかどうかを調べています。

\* 正常眼圧は10～20mmHg。高値なら緑内障を疑い、基準値下限の7mmHgより低い場合は網膜剥離などが疑われる。

Q：白内障と緑内障はどのような病気ですか？違いは何ですか？原因は？

A：白内障とは、眼の中でレンズのはたらきをする水晶体が濁る病気です。目がかすんで見えたり視力は落ちますが、痛みや充血はおきません。白内障の治療は初期の場合、まず薬物治療（点眼）をします。白内障が進んでいる場合は、薬のみで治療する事はほとんど不可能で手術が必要となる場合があります。原因は加齢にともなって起こるものがほとんどです。（糖尿病などの全身疾患、先天的にあるもの、外傷などが原因となる場合もある）。

緑内障とは、眼球内の水分の調整がうまくいかず水がたまり眼圧が上昇する病気です。眼圧の上昇により、視力低下、視野欠損、充血、吐き気、頭痛などが起こります。ひどく進行してしまうと、失明の危険性もあります。治療は眼圧降下剤などの薬物治療（点眼）、レーザー治療、手術治療などがあります。原因は眼球内の水分の調整がうまくできてない場合や眼の中の炎症、外傷、悪性腫瘍、白内障、先天性の要因などがあります。

Q：眼底の検査は何を調べているのですか？

A：眼底の検査は眼の神経や血管が入り出している視神経(しんけい)乳頭(にゅうとう)（写真で白っぽく写っているところ）のへこみの程度をみています。正常よりへこみが大きいと視神経が障害されているということで、視神経乳頭陥(けいにゅうとうかん)凹(おう)拡大(かくだい)と判定され、緑内障を疑います。つまり、眼底の検査は緑内障を調べています。

また、眼底検査で眼の血管の状態も調べて、目の病気以外に動脈硬化・高血圧・糖尿病による血管の変化も調べています。

## ⑩ABI

Q：ABI 検査とは、どんな検査ですか？

A：ABI 検査は、上腕と足くびの血圧を同時に測定します。その血圧比で動脈硬化の程度を診断する検査となっています。

## ⑪MRI

Q：脳ドックを受けたいのですが、いくらかかりますか。

A：脳ドック利用金は 35,000 円+税

頭部MRオプション料金は 20,000 円+税

(オプション頭部MRには脳外科診察は含まれていません。)

Q：脳ドック（MR検査）を受けたいのですが、説明はすぐ聞けますか？

A：脳ドック検査は事前のご予約が必要です。また、人間ドックにオプションとしても追加できます。脳ドック検査に関する結果説明は当日専門医が行います。オプション追加の場合は専門医の説明はございません。後日、検査報告書でご報告いたします。

Q：MRIとCTの違いは？

A：CTでは放射線を使うのに対してMRIでは磁力線を使います。

CTはクモ膜下出血、脳出血、外傷による出血などの診断に非常に優れています。また、骨や肺の状態を確認したいときはCTが適しています。欠点として放射線を使っており、被爆があるため妊娠の可能性のある方にはお勧めできません。

MRIは脳梗塞や脳腫瘍などの診断に優れています。輪切り、縦切り等どんな断面像でも写すことができます。欠点として、狭い場所に入るので、閉所恐怖症の方には不向きです。また、磁力を使うため体内に金属が入っている方はMRIは要注意です。ペースメーカーが入っている方はMRIはできません。

Q：体に金属が入っていますがMRは可能ですか？

A：心臓ペースメーカー、人口内耳、心臓機械弁、動脈クリップ、コイル、ステントなど、人工物が体に入っている方は検査を受けられません。

MRIは磁石の力を使って検査するので、これらの人工物を体に入れている方がMRIに入ると、壊れたり、位置がずれてしまう危険があります。ただし、チタンなど、非磁性体のものでできた人工物もありますので、過去に手術で人工物を入れた方は、事前にスタッフに申し出てください。

歯のかぶせ等の取り外しのできないものに関しては例外となります。

金属製品を身につけたまま検査を行うと、金属により画像が歪んだり、金属自身が熱をもち、やけどをする恐れがありますので、基本的には金属製品を持って入ることができません。検査室内には、強い磁場が発生していますので、磁気と接触することで壊れる物(時計、クレジットカード等)を持ってはいることはできません。

タトゥー(刺青)、アイシャドウ、アートメイクなど金属成分が含まれているものを使用していた場合、火傷の可能性があるので検査の実施ができない場合があります。